

SYOHEI ニュース 令和5年12月号

令和6年度医師奨学生募集要項発表

奥州市では12月13日、来年度の医師養成奨学生募集要項を発表しました。皆様のお知り合いの方への周知をお願いします。

募集人員 1名程度

貸付金額 月額30万円(定額)

入学一時金1,080万円(定額)

入学準備金360万円を限度(義務履行加算あり)

入学準備金(胆江枠)200万円(義務履行加算無)

*** 貸付総額は最大で6年間で3,800万円です。**



応募資格

奥州市立病院及び診療所の医師として業務に従事する意思がある方

募集期間

令和6年2月1日(木)から4月19日(金)

選考

面接及び書類審査 令和5年3月16日(土)

3月13日以降に申請書受理者は別途お知らせ

償還免除

医師免許を取得し初期研修終了後に貸付期間と同じ期間、奥州市立病院で勤務した場合は貸付金額の償還を免除します。

応募方法

募集要項及び奥州市医療局ホームページにて詳細をご確認のうえ、下記問い合わせ先まで郵送または持参にてお申込みください。



問合せ先

奥州市医療局医師確保推進室：浦川・渋谷・尾形

TEL 0197-25-3833 FAX 0197-25-3832

<https://www.city.oshu.iwate.jp/site/iryokyoku/>

奥州市医師奨学生の状況：その1

1 新規奨学生採用状況(過去5年間)

年度	H31	R2	R3	R4	R5	合計
採用数	0	3	1	1	2	7人

奥州市医師奨学生の状況：その2

2 奨学生の義務履行等の状況(奨学生等12人中)

- ① 専任医師として勤務 1人
 - ② 週1回の診療応援での義務履行 3人
 - ③ 県内医療機関での専門研修 1人
 - ④ 県内医療機関での初期臨床研修 1人
 - ⑤ 医学生 6人
- 令和5年12月現在**

大谷選手の歩み(年表:奥州市ふるさと応援団HPより)

1994年7月6日 奥州市で誕生
2001年4月市立姉体小学校入学
小学校時代は水沢リトルリーグに所属
2001-2006



2007年4月 市立水沢南中学校入学
中学校時代は一関リトルシニアに所属
2007-2009



2010年4月 花巻東高校入学
2011年8月と2012年3月甲子園出場
2013年3月 北海道日本ハム入団
2015年1月11日



奥州市の成人式に参加 (市広報でのインタビュー時の写真)

2018年4月 MLB ロサンゼルス・エンゼルス入団
2018年11月 ア・リーグ最優秀新人に選出
2019年6月 MLB 日本人初サイクル安打達成
2021年7月 MLB 史上初リアルニ刀流でオールスター出場
2021年11月 ア・リーグ最優秀選手賞に選出
2022年8月 MLB104年ぶりの2桁勝利2桁ホームラン
2023年3月 WBC 世界制覇 最優秀選手賞に選出
2023年8月 MLB 史上初2年連続2桁勝利2桁ホームラン
2023年10月 日本人初のMLB本塁打王獲得
2023年11月ア・リーグ2度目のMVPを満票で選出
2023年12月FAで来シーズン、ドジャースに移籍決定
ア・リーグ最強打者ハンク・アーロン賞受賞

大谷翔平選手の今シーズンの成績ボード

打者 打率304 本塁打44 打点95 盗塁20
投手 勝利10 敗戦5 防御率3.14 奪三振167

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年12月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州市HPの中の「奥州市の先人」。今回は、裸で健康推進『及川裸観』をご紹介します。

裸で健康推進：^{おいかわうかん}及川裸観（1901年：明治34年～1988年：昭和63年）

及川裸観は、健康第一と、裸運動の普及に尽くした人です。その業績は「ラカンのあとにラカンなし」と言われ、

- 一 広く大衆の健康と幸せを願って貢献した人
- 二 敬老会の慰問に1万回、学校などの行脚激励に25万箇所、講話10万回を果たした人
- 三 大衆に敬愛され、幼児・青少年にも親愛された人でした。



1901年、及川裸観は前沢町古城に生まれる。生家は貧しい農家でした。百姓の第一条件は丈夫な体でしたが、裸観は小さいころから病気がちであり、両親はとても心配する毎日でした。一方、裸観の家は相撲力士の生家であり、時折、力士が帰ってくると、禪一本で四股を踏んだり、庭の立木に汗を流しながら突きの練習をしていました。裸観は、力士のように強くなりたいという思いから、いつの間にか裸で外に出るようになり、『全身を顔にせよ』という上半身裸で半ズボンという裸観のスタイルは、その後生涯を通して続けられました。



極寒の網走氷像前

1911年、小学校5年の時、家計に窮し、網走で農業を営む母方の兄を頼って一家で北海道に渡る。開拓者として荒野の開墾に明け暮れ、体はもちろん意思も強い人に成長する。

1923年、23歳の時、小大砲(元十両)の助言で上京し、高橋繁治より自彊術を習った。自分の体に自信を持ち、働けるようになった裸観は、そこで自分の健康法を広め、病弱で苦しむ人々に教えを広めたいと思うようになる。

1928年、28歳の時に、東京日日新聞(現毎日新聞)の配達をはじめました。『ニコニコ体操』『全身を顔にせよ』のたすきをかけて上半身裸で朝夕配達し、健康の大切さを訴える。

1931年、31歳で指圧師として生計を立て始め、初めて故郷前沢に帰郷する。

1935年35歳の時、「笑いは健康の泉・薄着は健康の源」をモットーに全国行脚を始める。

1937年、37歳の時に網走で水中水泳を始める。以後、オホーツク海・網走川を泳ぐことが、恒例行事になる。 年老いてからも、裸で全国を回り、裸運動の普及に尽力する。

1975年75歳で、第10回東京キワニス社会公益賞(社会のノーベル賞と言われる)を受賞。

82歳になってもなお、学校や会社、役所を訪問し、自分の生き立ちを紹介し、体が弱かった自分を鍛えるために、小学校の時から裸でいたことや、何でも食べることなどを話して回る。柔軟体操や、裸観特別の床上運動などをして、年齢を感じさせない、息をのむような早い運動の連続に拍手がわき起こる。1988年東京にて、脳梗塞のため死去。88歳でした。